

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究(A)  
研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度  
課題番号：18202006  
研究課題名(和文) 観世文庫所蔵能楽史料関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究  
研究課題名(英文) A Comprehensive Study for Producing the Catalogue and Digitalized Archive of the Noh Related Materials in the Kanze Bunko Collection  
研究代表者  
松岡 心平(MATSUOKA SINPEI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：70173812

研究分野：人文学  
科研費の分科・細目：文学・日本文学  
キーワード：日本文学、デジタルアーカイブ

#### 1. 研究計画の概要

本研究は、(1) 観世文庫が所蔵する能楽関係文献資料をマイクロフィルムに撮影・保存したうえでこれをデジタル画像化し、(2) デジタル画像データを書誌情報と統合したうえで WEB データベースとして公開するとともに、(3) 解題目録を作成することで、今後の能楽研究の発展の基礎を築くことを目的とする。

##### (1) 資料撮影

18～20 年度。選定業者に委託して観世文庫の文献資料をモノクロ・マイクロフィルムに撮影・保存し、フィルム・スキャンングによりデジタル画像化する。ただし、重要資料は先にデジタル・カラー撮影し、これをフィルムに焼き付ける方法を取り、カラー画像を用意する。撮影の準備作業として、全資料の丁数ほか基礎書誌の確認作業をおこなう。

##### (2) データベース構築・公開

18～21 年度。従前の書誌データベースに、(1) の書誌調査及び(3) の解題作成によって得られた書誌情報を追加し、観世文庫所蔵文献資料全体にわたる包括的な書誌データベースを構築する。さらに、(1) の資料撮影で得られた資料のデジタル画像をこれと統合し、WEB データベースとして公開する。

##### (3) 解題目録作成

20～21 年度。(1) の資料撮影によって得られた資料のデジタル画像を研究分担者・協力者に配布し、各自のパソコンモニター上でこれを解読して解題を執筆する。最終的に全資

料の解題情報を(2) のデータベースに統合したうえで、これをもとに冊子体の解題目録も作成する。

#### 2. 研究の進捗状況

(1) 一部の貴重資料をのぞき、ほぼ全資料の撮影を終了し、観世文庫所蔵文献資料の全体にわたるマイクロフィルムとデジタル画像データが作成された。これにともない、所蔵資料の基礎書誌が得られ、また資料の保存状況も改善された。

(2) 書誌データベースは(1) の基礎書誌調査のフィードバックにより、大枠が完成した。その後の解題調査の結果も随時フィードバックされ、20 年度終了時点で全 5966 点の所蔵資料中、2711 点までの解題情報が追加されている。

(3) 上述のとおり、全資料のほぼ半分にあたる 2711 点の解題が作成された。モニター上では判読できない情報もあることが判明したため、当初計画にはなかった原本調査を観世文庫において 4 回実施した。これらを通じて、解題の凡例に関する書誌学的な議論を積み上げ、解題目録の形式を確定することができた。

#### 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

##### (理由)

観世家よりたびたび新出資料が発見されたり、基礎書誌の確認作業の結果、撮影コマ数が計画策定時の想定をはるかに超えること

が判明したりする等の事情で、19年度前半で終了すると見込んでいた資料撮影が計画全体の後半にまでずれこんだ。そのため、データベース構築と解題作成の作業に取りかかる時期が遅くなり、当初計画では20年度中に終了するはずだったが、21年10月頃までかかる見込みである。

#### 4. 今後の研究の推進方策

##### (1) データベース構築と解題目録

上述のとおり、当初計画よりも遅れているため、研究分担者の数を増やす(高橋悠介)、原本調査の開催密度を増やす(8月までに3回)などの方策で、10月までの解題基礎稿の集成と、データベース暫定版の公開を目標とし、年度内での完成を目指す。

##### (2) 展覧会の実施

研究成果のアウトリーチの観点から、10月から11月頃に東京大学駒場博物館において「観世家のアーカイブ 世阿弥直筆本と能楽テキストの世界」(仮称)と題した展覧会をおこなう。あわせて研究成果をふまえたシンポジウムを開催する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 7件)

松岡心平「世阿弥の身体論 漢文で書くこと」『古典日本語の世界 漢字がつくる日本』(東京大学出版会) 査読無、2007年、155-183頁。

横山太郎「檜垣蘭拍子 その歴史と可能性」『観世』74巻9号、査読無、2007年、28-38頁。

松岡心平「花の時代の演出家たち」『ZEAMI』4号、査読無、2007年、30-37頁。

高桑いづみ「世阿弥自筆本の節付を考える 「難波梅」から「盛久」「江口」まで」『無形文化遺産研究報告』2号、査読無、2008年、286-265頁(縦組みのため頁逆順)。

##### [学会発表](計 2件)

##### [図書](計 1件)

松岡心平(編)、小川剛生ほか、森話社、『看聞日記と中世文化』、2009年、369頁。